

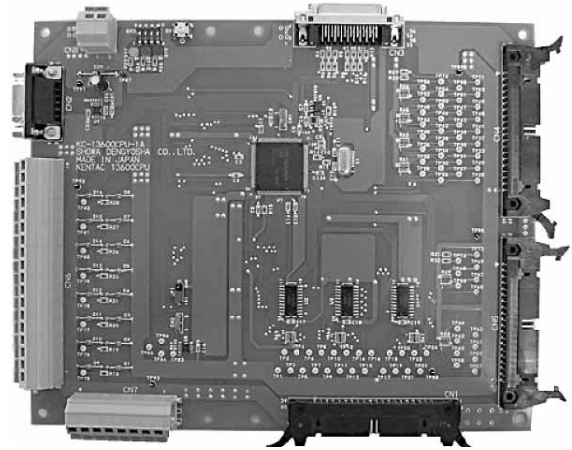
新32ビットワンボードマイコン

KENTAC 13600CPU

コネクタは従来のKENTAC製品互換
ステップモータ,DCサーボ等接続可能

特 徴

単行本『C言語によるモータ制御（仮称）』が付属
高橋久先生著（電波新聞社発行）
上記本にCコンパイラ付・機械制御用各種関数及びモータ制御用各種関数サンプル付
（詳しくはHPを参照ください）
コネクタはKENTAC800Zmk2、PCP-2等とピン配列の同じコネクタが1個付いています。
当社のインバータ駆動部（KENTAC 3305IV及び3010～3012）と40芯コネクタでワンタッチで接続が出来ます。
内部10bit A/D×8chを持っています。
外部高速シリアル12bit D/A×4ch持っています。
3アーム分（6bit）のPWM出力が可能です。
入出力確認用ピンが多数設置してあります。



システムの仕様

CPU : SH7085 (SH2) (RENESAS製)
動作クロック : 80MHz
内部A/D : 10bit 8chをCN6に引き出し
内蔵ROM : 512kB (フラッシュメモリ)
RAM : 32kB
プログラム書き込み用ポート :

RS-232C×1ポート
RENESAS製E10A接続用

特別付属品 : C言語によるモータ制御（仮称）
著者高橋久先生（電波出版社発行）
コンパイラ、デバッカ等（限定あり）
付属サンプルソフト（予定）

- 1) システム関数 1
- 2) 時間待ち関数 8
- 3) 標準PIO関数 7
- 4) PWM関数 3
- 5) 計数関数 8
- 6) AD関数 2
- 7) DA関数 1
- 8) 通信関数 6
- 9) メイン関数 1
- 10) 信号発生関数 (sin, cos等)
- 11) その他モータ制御オリジナルソフト

パラレルI/O : 8ポート (40ピンコネクタ×2)

CN4コネクタ : KENTACシリーズに同じ
設定により2ポート入力,2ポート出力

CN1コネクタ : インバータ等に使用
START,STOP,RESET,PWM×6bit

CN7 : 高速シリアルD/Aコンバータ
12bit×4ch

CN6 : 内蔵A/Dコンバータ
10bit×8ch

CN5 : 一般I/O×13bit

ボード寸法 : 約170×140×35 (mm)

全体寸法 : 約

電源 : AC100V、内部電源 : DC5V

ソフトウェアの開発環境

CPUプログラム書き込み : CN2

単行本付属のC言語コンパイラをご使用ください

通信方式はRS232Cです。

コンパイラ等の詳細についてはHPをご確認ください

RS232Cケーブルはご用意下さい。

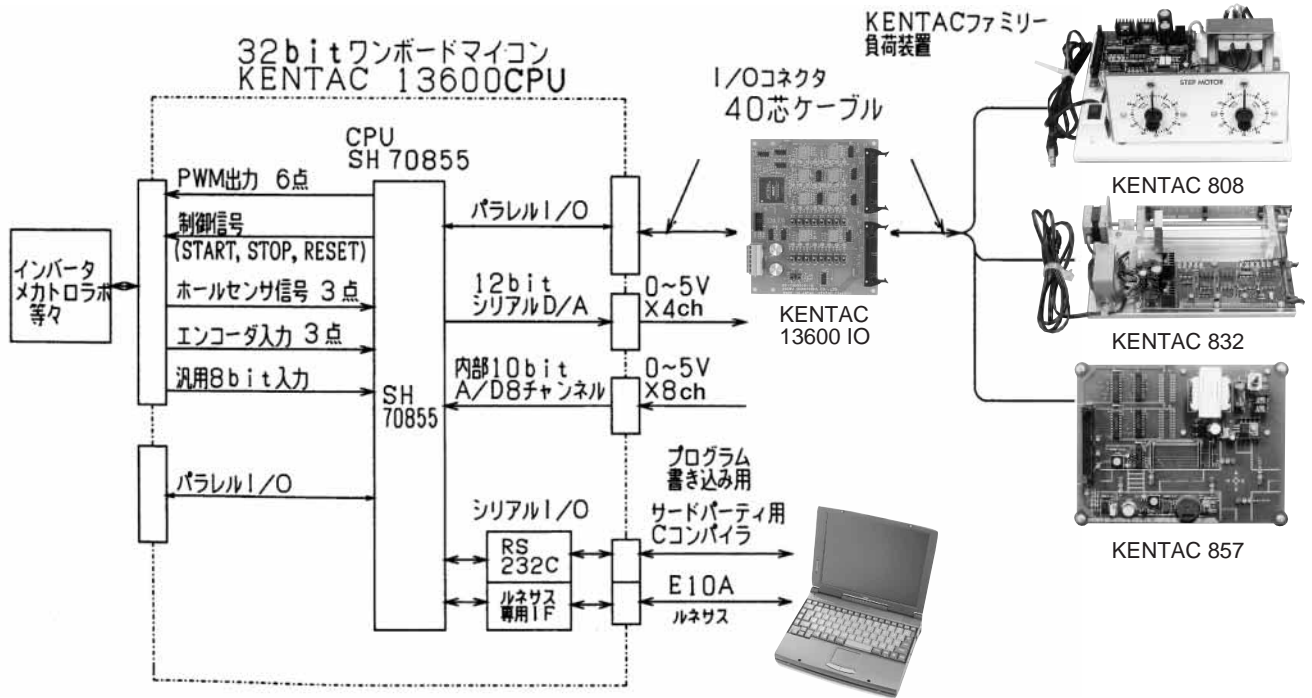
本格的デバッカ等をご使用される方は

RENESAS製開発ツールHEW,E10A

イエローソフト YCSH

等をご使用ください

KENTAC13600CPUのブロック図



インバータ用CPUボード

KENTAC 13500

特徴

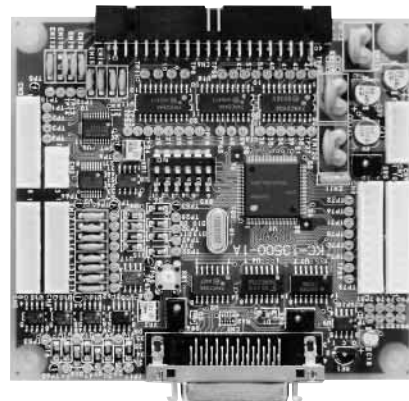
SH2の中でも多く使用されているSH7047 (SH2) CPUが使用されています。

A/D, D/Aが用意されています。

当社製インバータKENTAC3305IV及びKENTAC3010~3012等と40芯ケーブルでワンタッチで接続可能です。

シリアルにRS232Cが標準装備されています。

ブラシレスDCモータ駆動例が提供されます。



システムの仕様

CPU	: SH7047 (SH2)
	49.152MHz
A/D	: 内部10bit 8ch
D/A	: 12bitシリアルD/A 4ch
書き込み	: RS232C
シリアル	: CAN
メモリ	: EEPROM256kB
	RAM12kB
インバータ制御用コネクタ	
	: PWM出力6bit
	制御信号
	ホールセンサ入力 3点
	エンコーダ入力 3点

